

4 日照・日射

4.1 太陽の位置

【太陽位置】

- 天空を半球で示し、その上を太陽が動いていくイメージを…
 - 17 日本中央標準時の基点である東経 135 度から東側の地域においては、【南中時】が早くなる
 - 22 南中高度が 60 度となる日の【日の出・日没の太陽位置】は、春秋分の日に比べて北側となる

4.2 日射

【日射】

- 日射は直達日射のみならず、空気中を乱反射して地表に達する天空放射なんてものもあります
- 放射は大気の状態の影響を受けるので留意
 - 12 【大気透過率】は、太陽が天頂にある時に地表に到達する直達日射量の太陽定数に対する割合で表される
 - 27/23 直射日光の【色温度】は、正午ごろが最も高く、日没頃が最も低い
 - 26/13 【夜間放射】とは、地表における下向きの大気放射と上向き地表面放射との差、昼間にも生じることがある
 - 23/15 曇天時においては、雲量が多いほど、雲高が低いほど【夜間放射量】は少なくなる

【日射量】

- 各壁面の全直達日射量の比較は必須！（多数出題されているように見えますが…H14・19・22 が丸々1 問日射量比較…）
 - 19 【終日日射量】の大小は、冬至南面>夏至西面>冬至水平面>夏至南面
 - 12 快晴の夏至における【終日日射量】は、南向き鉛直面よりも東向き鉛直面のほうが大きい
 - 14 夏至の日の【終日日射量】は、どの向きの鉛直面に比べても、水平面のほうが大きい
 - 14 夏至の日の【終日日射量】は、南向き鉛直面に比べて、東向き鉛直面のほうが大きい
 - 25 春秋分の日において、南中時の直達日射量は、南向き鉛直面よりも水平面のほうが大きい
 - 27 春秋分の日【終日日射量】は、どの向きの鉛直面よりも水平面のほうが大きい
 - 14 冬至の日の【終日日射量】は、水平面に比べて、南向き鉛直面のほうが大きい
 - 14 冬至の日の【終日日射量】は、東向き鉛直面と西向き鉛直面では同じ値となる
 - 25/14 冬至の日の【終日日射量】は、西向き鉛直面に比べて、南向き鉛直面のほうが大きい
 - 22 南中高度が 60 度となる日の南中時の【法線面直達日射量】は、水平面直達日射量の $2/\sqrt{3}$ 倍となる
 - 22 南中高度が 60 度となる日の南中時の南向き【鉛直面直達日射量】は、水平面直達日射量の $1/\sqrt{3}$ 倍となる
 - 22 南中高度が 60 度となる日の【終日直達日射量】は、水平面がどの向きの鉛直面よりも大きい

【日射調整】

- 日射を遮蔽する各種技術（ルーバー/ブラインド/ Low-E ガラス/熱線吸収板ガラス等）の把握
- 日射・日照を調整する技術（ライトシェルフ/光ダクト等）の把握、以上 2 つに大別し確認しては？
 - 11 南に面した窓に設けた庇は、夏季の冷房負荷の低減に有効であり、さらに冬季の暖房に際しては負荷とはならない
 - 24/21 庇状の水平型【ルーバー】は、南面の窓に用いると夏季における日射熱の遮蔽に有効
 - 15
 - 24/18 西向き窓面に設置する縦型【ルーバー】は、日照・日射調整に有効
 - 10 【ブラインド】は、窓の室内側に設けるよりも屋外側に設けるほうが日射遮蔽効果が大きい
 - 23 【Low-E ガラス】とは、日射の長波長域の反射率を高めたガラスであり、冷房負荷を低減させる



- 18/15 【熱線吸収板ガラス】は、室内への日射熱の侵入を抑える効果があるが、冬季の断熱効果は期待できない
- 12 【熱線吸収ガラス】は、可視光線透過率が低下するものが多い
- 19/11 建築物の南側や西側に落葉樹を植えることは、夏季の【日射遮蔽】に効果的
- 11 日射熱が最上階の天井から流入することを防ぐため、屋上に芝生を植栽することは有効（【屋上緑化】）
- 16 【屋上緑化】に伴う屋上の土壌については、保水時に水分の蒸発による冷却効果も期待できる
- 24/10 建築物の外壁や屋根の色は、「冬季の日射吸収」または「夏季の日射反射」のいずれを優先させるべきかについて検討する際に重要
- 25 【長波長放射率】とは「ある部材表面から発する単位面積当たりの放射エネルギー」を「その部材表面と同一温度の完全黒体から発する単位面積当たりの放射エネルギー」で除した値
- 14 建築物の【日射熱取得】は、直達日射、天空日射、地表面からの反射、日射受熱による高温物体からの再放射（照り返し）による熱取得の総計
- 25/20 窓ガラスの【日射熱取得率（日射侵入率）】は、「ガラスに入射した日射量」に対する「ガラスを透過した日射量とガラスに吸収された後に再放射された日射量の計」の割合
- 12
- 20 金属を含まない一般的な塗装を施した場合、塗装の色にかかわらず赤外線に対する【反射率】は 0.1 程度、表面の吸収率は 0.9 程度
- 26/22 【日射遮蔽係数】は 3mm 厚の普通透明板ガラスの日射遮蔽性能を基準、値が大きいほど日射取得が大きい
- 14/10
- 24/21 【ライトシェルフ】上面で反射した昼光を室内の奥に導き、室内照度の均斉度を高める、眺望も妨げない
- 21 【光ダクト】ダクト内部に反射率の高い素材を用いた導光装置であり、採光部から目的空間まで自然光を運ぶ

4.3 日照

【日照】

□ 日照時間と日照時間の定義の把握

- 21 【日照時間】とは、ある地点においてすべての障害物がないものと仮定した場合に日照を受ける時間のこと
- 23 南向き鉛直壁面の 1 日の【日照時間】は、春秋分の日で 12 時間と最長となり、夏至の日が最短（@北緯 35°）
- 25 夏至の日の【日照時間】は、北向き鉛直面より南向き鉛直面のほうが短い
- 27 【日照率】とは、日照時間を日照時間で除して百分率で表したもの
- 20 【水平面日差し曲線】は、年間の水平面の日差し曲線を 1 枚の図としてまとめたもの

【日影】

□ 建物に生じる時刻ごとの日影の様子を確認するもの⇒日影曲線図、その際の日影の様子を図示したもの⇒日影図、日影図をもとに建物周辺にできる日影の時間を示す等高線を表したもの⇒等時間日影図、って感じです

- 24 【日影曲線図】春秋分の日において、水平面上に立てた鉛直棒の直射日光による影の先端の軌跡はほぼ直線
- 27/20 日影図において、日影時間の等しい点を結んだものを、【等時間日影図】という
- 18 真太陽時の影の方向を測定することにより、真北を求めることができる
- 23/20 夏至の日に【終日日影】となる部分は、1 年中日影であり直接光が射すことはない（【永久日影】）
- 20/17 東西に 2 つの建物が並んだ場合、それらの建物から離れた位置に【島日影】ができることがある
- 26/20 建築面積と高さが同じ建築物の場合、平面形状が正方形よりも東西に長い形状のほうが、4 時間【日影の面積】は大
- 25 東西に長い同じ高さの集合住宅が南北に 2 棟並ぶ場合、冬至の日の日照時間 4 時間を確保するためには、建物高さの約 2 倍の【隣棟間隔】が必要



5 採光・照明

5.1 光と視覚

【光への人体の反応】

- 見えやすい色ってのがあります（比視感度）、同じようなことが音にも言えます（聞こえやすい周波数範囲ってのがあります）
- 明るいと暗いところでは働く視細胞が異なるので、各種反応が変化します
 - 27/15 人の目が光として感じるのは約 380~780nm の【波長】の範囲
 - 27/22 放射エネルギーが同じ場合、人の目（明所視）には、赤色よりも緑色のほうが強く感じられる（【比視感度】）
 - 26/17 明所視において同じ【比視感度】である青と赤であっても、暗所視においては赤より青のほうが明るく見える
 - 25 人体は、【明順応】よりも【暗順応】のほうが時間を要する

5.2 光の単位

【光の単位】

- 各光の単位の重要キーワードを確認！

- 26/22
20/17 【光束】とは、ある面を単位時間に通過する光の放射エネルギーの量を、視感度を基準として測ったもの
- 25/15 【光度】とは、比視感度を考慮した単位時間当たりの光のエネルギー量である光束の単位立体角当たりの密度
- 24/15 【照度】とは、受照面に入射する光束（光束は人体の視感度補正を考慮）の単位面積当たりの量
 - 19 【照度】は人の感覚に応じて補正されている
 - 12 【直接照度】は、光源の光度、光源と作業面の距離、光源と作業面との角度によって求められる
- 27/18
15 【光束発散度】は、光源、反射面、透過面から発散する単位面積あたりの光束
 - 11 【光束発散度】の単位は、rlx
- 25/15
12 【輝度】とは、光源、反射面、透過面から特定の方向に出射する単位面積あたり、単位立体角あたりの光束
- 25/22
18 均等拡散面上における【輝度】は、照度と反射率との積に比例する
 - 20 点光源から均等拡散面上の受照点へ向かう【光度】を 2 倍にすると、受照点を望む【輝度】も 2 倍となる
 - 20 【輝度】は、光源面の他に反射面および透過面についても定義することができる
 - 23 【輝度】は、目で見た明るさ感に直接的な関わりがあり、照明器具のグレア評価に用いられる
- 20/13 受照点に対する光源面の【立体角投射率】は、その高原面が曲面の場合でも算定可能
 - 12 【完全拡散面】とは、どの方向から見ても輝度が一樣となる面

5.3 採光

【採光】

- 採光計画では、直射光を排除した天空光を対象として検討を行います
 - 18 居室の【採光計画】には、開口部に達する天空光を対象とする（直射光は対象外）
 - 26 【全天空照度】は、直射日光を除いた全天空からの水平面照度のこと
 - 23/17 【設計用全天空照度】において、快晴の青空は特に明るい日（薄曇）の 1/5 程度の明るさ
 - 26 昼光による室内の最低照度検討時には、【設計用全天空照度】に暗い日の値である 5,000lx を採用する

【昼光率】

- 昼光率が影響を「受ける」もの：開口条件（大きさ/形状/位置/立体角投射率）、ガラス（透過率/保守率/窓面有効率）、内装仕上げ、窓外に見える建物/植栽、天空の相対的輝度分布
- 昼光率が影響を「受けない」もの：全天空照度（輝度分布が均一ならば）、人工照明



- 21 【昼光率】は、全天空照度（直射日光は含まれない）に対する観測点の照度の百分率
- 16 【昼光率】は、直接昼光率（窓面から受照点に入射する光）と間接昼光率（室内仕上げ等に反射）との和
- 13 【昼光率】の計算においては、室内の人工光源による照度は含まれない
- 25/16 【昼光率】において、天空の輝度分布が一様であれば、全天空照度の影響を受けない
- 10
- 24/21 【昼光率】は、天井や壁面からの反射光の影響を受ける
- 14/10
- 21/16 【昼光率】は、窓と受照点の位置関係だけでなく、窓外の建築物や樹木等の影響を考慮して計算する
- 10
- 23/10 【昼光率】は、開口部の大きさ、形、位置だけでなく、ガラス面の状態や室内の内装の影響も受ける
- 20 側窓による昼光率を高くするためには、窓を大きく/窓を高い位置に設置/窓ガラスの透過率を高く等が有効
- 16/12 【昼光率】は、受照点に対する窓面の立体角投射率により異なる値となる
- 16 【昼光率】は、窓ガラスの透過率・保守率・窓面積有効率により異なる値となる
- 10 【昼光率】は、天空の相対的な輝度分布によって異なる
- 26/21 学校の普通教室の【昼光率】は、2%程度あれば良い

【採光調整】

- 均斉度を高めたかったら、極端に暗い所を作らないこと（光を拡散させたり、部屋の奥まで導いたりして対策を）
- 23/18 昼光による室内の照度分布を【均斉】にするためには、拡散性が高いガラスを用いると効果が高い
- 14
- 18 昼光による片側採光の部屋における照度の【均斉度】は、1/10以上とすることが望ましい
- 13 採光計画において、高い【均斉度】が要求される室には、高窓や天窓が有効である
- 21 室の片側に設けられた側窓採光では、室内の【床面照度分布（均斉度）】は窓の位置を低くしたほうが不均一となる

5.4 天空率

【天空光】

- まわりに高い建物等があると、太陽からの光を遮ってしまいます
- 18 全天空の立体角に対する、ある地点から見える天空の立体角の比を【天空比】という

5.5 明視

【明視】

- 人間の目の反応って結構繊細…明るいものがあつたら眩しいし（グレア）、光の差異によって物体の見え方も変わっちゃう
- 光源にも種類があつて、物体に当ててみたら色が変わってしまうなんてことも良くあります（演色性）
- 20/13 【グレア】とは、視野の中に極端に輝度の高い光源等が入り、まぶしさを感じ視対象が見えにくくなる現象、周囲の輝度との差が大きくなるほど顕著になる
- 14 視対象より周囲の輝度が低い場合に比べ、高い場合のほうが視力が低下する（視界の中に明るいものが入ってくると視対象が見えづらくなる）
- 23/14 【モデリング】では、視対象に当てられる光線の方向と強さが異なると、得られる立体感および質感は異なる
- 26 【色温度】とは、光源の光色をそれと近似する色度の光を放つ黒体の絶対温度で示したもの
- 19 【色温度】は、人の感覚に依じての補正はなされていない
- 13 照明に用いる光源においては、【色温度】が低いほど温かみのある光源となる
- 22/18 【演色性（演色評価数）】とは、物体に光を当てた時にその物体がどの程度自然と同等の色味に見えるのかを示す照明の性能のこと、基準の光の下における物体色の見え方からのズレをもとにした数値



- 11 【演色性】は、視対象の色そのものの影響は関係なし
- 20 照明の光源の【演色】は、光源の分光分布による影響を受ける
- 22 【演色性】は、色温度が同じ光源であっても異なる場合がある
- 17 光源色の評価は、【色温度】、【平均演色評価数】、【色度】等により行う

5.6 照明

5.6.1 人工光源

【人工光源】

□ 照明種ごとの特徴を把握！（設備分野で出題されたものも含む）

- 25/20 【白熱電球】は、【蛍光ランプ】に比べて、周囲の温度変動による【光束の変動】が小さい
- 13 【白熱電球】の寿命は、1,000～2,000 時間程度であり、【蛍光ランプ】は 3,000～10,000 時間程度
- 10 【蛍光ランプ】よりも一般照明用電球（【白熱電球】）のほうが、平均演色評価数/発光面の輝度が高い
- 10 【蛍光ランプ】よりも一般照明用電球（【白熱電球】）のほうが、ランプの総合効率/平均寿命が低い
- 10 【蛍光ランプ】よりも一般照明用電球（【白熱電球】）のほうが、ストロボ効果が生じにくい
- 22/20 【高圧ナトリウムランプ】は、【白熱電球】に比べて【ランプ効率】は高いが【演色性】は低い
- 22 【LED ランプ】の平均【ランプ効率】は、【Hf 蛍光ランプ】の平均【ランプ効率】と同程度（H22 当時）
- 24 【白熱電球】は、色温度が約 2,800K の赤みがかかった光色であり、ランプ効率は低いが演色性は高い
- 26/14 【水銀ランプ】は、【白熱電球】に比べて、色温度は高く、演色性は低い
- 26 【蛍光ランプ】は、紫外線を蛍光物質（放電管壁に塗布）によって可視光に変換する放電ランプ
- 24/20 照明器具の光源の【色温度】の高低は、昼光色【蛍光ランプ】（6,500K）、昼白色【蛍光ランプ】（5,000K）、【高圧ナトリウムランプ】（2,200K）の順である
- 18 高出力の【蛍光ランプ】の光束は、周辺温度の影響を受け、25℃程度で最大効率となるように設計されている
- 22 【ナトリウムランプ】の【ランプ効率】は高く、一般に、130～180lm/W
- 26 【LED ランプ】は、小型・軽量・省電力・長寿命・熱放射が少ないなどの特徴がある
- 23 白色【LED ランプ】の平均演色評価数は、【水銀ランプ】よりも高い
- 12/27 【HID（高輝度放電/高圧放電）ランプ】には、高圧水銀ランプやメタルハライドランプなどがあり、体育館のような高天井の空間や屋外などの照明に採用される
- 12 爆発又は燃焼のおそれがあるガス蒸気、粉塵、石油類などの危険物を扱う箇所に設置される照明には、【防爆照明器具】を採用する

5.6.2 照明方式

【照明方式】

- 照度分布の基準は 3 つあるので留意、昼光による均斉度 1/10 以上、全般照明のみによる均斉度 1/3 以上、全般照明と局部照明の比 1/10 以上
- 22/18 【配光曲線】は、照明器具の配光特性を示す、照明器具の中心を原点として光源の光度を極座標に示したものの
- 23/18 全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明の照度は局部照明の照度の 1/10 以上とする
- 13
- 26 人工照明により全般照明を行う場合、照度の均斉度は 1/3 程度を推奨
- 24 全般照明方式は、【タスク・アンビエント照明方式】に比べて、電力消費量が多くなる
- 12 照度分布を均一化し、影を少なくするには、照明器具の数を増やしたり、間接照明や光天井の採用等が有効



5.6.3 照度基準

【照度基準】

- 18 JIS の【照度基準】における室内の所要照度は、床上 85cm における水平面の照度で示す
- 23/15 病院の手術室・診察室における照明は、事務所において使用する照明に比べて、【演色性】の高い光源とする

5.6.4 照明設計

【照明設計】

□ 光束法による計算問題が以前出題されていましたね

- 18 点光源による直接照度は、光源からの距離の二乗に反比例する
- /27 【光束法】による平均照度計算における【照明率】は、光源から出た光の内、作業面に達する光の割合を示す
- 24/15 【光束法】による平均照度計算において、【照明率】に影響をおよぼす要素は、室指数・室内反射率および照明器具の配光は含まれるが、保守率は含まれない
- 20 二つの室において、「照明器具の種類」「照明器具の単位面積当たりの台数」「天井高さ」の三条件を同一としても、「室の面積」「周長比」等の条件により両室の床面の照度は異なる
- 15 昼光を利用する照明計画を採用する場合は、明るさ変動・過度なまぶしさ・空調負荷等に留意すること
- 22 【保守率】は、「ある期間使用後の作業面の平均照度」を「初期の作業面の平均照度」で除した値
- 18/13 【保守率】は、ランプの経年劣化やほこり等による照明器具の効率低下をあらかじめ見込んだ定数であり、照明器具の形式・使用場所等により異なる

5.6.5 照明設備における省エネルギー

【環境省エネ】

□ 設備分野「省エネ」とも被りますね

- 18 【CEC/L（照明エネルギー消費指数）】とは、「年間照明消費エネルギー量」を「年間仮想照明消費エネルギー量」で除した値
- 22 照明設備の下面にルーバーを取り付ける場合、取り付け前と同じ平均照度を確保するために必要な【照明消費エネルギー】は増加する
- 27/23 【初期照度補正制御】とは、ランプの経年の照度低下等を見込んで初期照度は必要照度よりも高く設定されるので、初期の照度を低く調光する制御
- 24/15 【適正照度維持制御】適用有無による照度の差は、照明設置直後が最大でランプ清掃・交換の直前で最小となる
- 12 高周波点灯専用形蛍光灯電子安定器と Hf 蛍光ランプを組み合わせた照明器具は省エネに有効
- 20/15 1970 年代前半までに製造された照明器具の【安定器】には、PCB を含有するものもあり、廃棄の際に留意する

6 色彩

6.1 混色

【混色】

□ 光と塗料で混色の特性が真逆になりますよ

- 19 【加法混色】の三原色「赤 (R)・緑 (G)・青 (B)」、【減法混色】「シアン (C)・マゼンタ (M)・イエロー (Y)」
- 27 【加法混色】の三原色「赤 (R)・緑 (G)・青 (B)」、等しい割合で混ぜると白色となる
- 17 【加法混色】により無彩色となる 2 つの色は、互いに補色の関係にある
- 23/21 【減法混色】は、色を吸収する媒体を重ねあわせて別の色をつくること、混ぜあわせが増えるほど黒に近づく



6.2 色彩

【表色系】

□ マンセル色立体、XYZ 表色系ともにカラー画像でチェックしておくといいですよ

- 12 【マンセル色立体】は、鉛直軸に明度、同心円上に彩度、円周上に色相を配した円筒座標による立体尺度
- 22/10 【マンセル表色系】では、色彩を 2PB 3/5 のように表現、2PB が色相、3 が明度、5 が彩度を示す
- 15 【マンセル表色系】において、彩度の最大値は、色相や明度により異なる
- 21 【マンセル表色系】では、明度はバリューとして表され、視感反射率に対応する値である
- 13 【マンセル表色系】において、理想的な白はマンセルバリューを 10 とする
- 25 【マンセル表色系】において、マンセルバリューが 5 の色の視感反射率は、約 20% である
- 10 【マンセル表色系】では、無彩色は N5.5 のように N を付けて明度のみで示す
- 24/18
11 【マンセル表色系】において、7.5YR 8/5 よりも 7.5YR 9/5 のほうが明るい（明度は値が高いほど明るい）
- 10 【XYZ 表色系】とは、色感覚と分光分布の対応関係に基づくもの
- 19 【XYZ 表色系】では、xy 色度図上の外周の曲線部分は、波長が 380~780nm の単色光の色度座標を示す
- 20/11 【XYZ 表色系】では、xy 色度図上の原点に近い色は青、x 方向への増加で赤、y 方向への増加で緑を帯びる
- 18/10 【XYZ 表色系】での三刺激値 X、Y、Z のうち Y は、光源色の場合には光束などの測光量に対応している
- 17/11 【XYZ 表色系】での 2 つの色の加法混色の結果は、xy 色度図上の 2 色の位置を示す点を結んだ直線上にある
- 10 【オストワルト表色系】では、理想的な黒、理想的な白、オストワルト純色を定義、それらの混色で色彩表現

【表色】

□ ちょっと建築から離れているようには思いますが（服飾系等）

- 18 JIS の有彩色の系統色名は、基本色名に「明度・彩度による修飾語」と「色相に関する修飾語」を付けて示す
- 15 【トーン（色調）】とは、明度と彩度を合わせた概念、色名の前明るい、濃い等の修飾語により表現される

6.3 色彩効果

【色彩効果】

□ 実際の色を思い浮かべながら、色彩効果をイメージするのが重要！

- 14 赤紫・赤・黄赤・黄等の色相は暖かい印象を与える（【暖色】）
- 16 低明度色や寒色は、その色の視対象の図形の大きさが実際よりも小さく認識される、【収縮色】とも呼ばれる
- 14 重厚な印象を与えたい場合には、明度の低い色を用いる
- 23 【進出色】は、周囲よりも飛び出して見える色をいい、暖色や高明度色が該当する
- 22 色が同じ場合、面積の大きいもののほうが、明度・彩度ともに高く見える（【面積効果】）
- 20/16 【誘目性】は、目を引きやすいか否かに関する属性であり、高彩度色は誘目性が高い
- 14 色が同じ場合、面積の大きいもののほうが、明度ならびに彩度ともに高く感じる
- 21/16 色票を用いた視感による測色において、測色する部分の面積が色票の面積に比べて大きすぎると誤りやすい
- 27/23
14 色光の【誘目性】は、赤が最も高く、青、緑の順ではあるが、背景色によってこの傾向は変化する
- 23/19 【恒常性】とは、照明の光が多少変化しても、光が一様に物体に当たれば、物体の色を同じ色に認識できること
- 25 物体の表面色の見え方は、見る方向により異なることがある
- 21 低照度では色温度の低い色が好まれ、高照度では色温度の高い光が好まれる



- 14 色相や色調に共通性のある色の組み合わせは調和する
- 26/19 【記憶色（記憶上の色彩）】は、実際の色彩に比べて彩度が高くなる傾向にある
- 15 異なる物体色をもつ物体でも、照明する光の【分光分布】との関係によっては、同じ色に見えることがある
- 15 全波長を均等に反射する【分光分布】をもつ物体を太陽光のもとで見ると、その物体の反射率が高いほど太陽光に近い白色に見える

6.4 色の対比

【対比】

- 19 【対比】とは、「囲まれた色・はさまれた色」と「その周囲の色」との相違が、強調されて見える現象
- 26/16 囲まれた色、挟まれた色等が、その周囲の色に近づいて見える現象を【同化】という
- 26/15 小面積の高彩度色を大面積の低彩度色に【対比】させて用いると、アクセント効果が得られる
- 25/16
11 【視認性】は、注視している対象がはっきり見えるか否かに関する属性、視対象と背景の明度差の影響を受ける

6.5 色彩調整

【色彩調整】

JISに規定されている各色の表示事項をチェック、イメージと異なるものはありますか？

- 17 JISの【安全色】の一般事項における「青」の表示事項は「指示」及び「用心」
- 25 JISの安全色の一般事項における「緑」の表示事項は、「安全」「避難」「進行」
- 18 JISにおいて、色材を一般材料とする場合、【安全色】は赤・黄赤・黄・緑・青・赤紫、その対比色は、白・黒
- 22 【高齢者の色覚】は、低照度条件下で色彩の分別能力が低下する傾向があり、微小な色の違いを認識しづらい

【memo】

